

令和2年度板橋区青少年問題協議会(第1回全体会【書面開催】) 各議題に対する委員の意見と区の考え方

	議題名・ご意見	区の考え方
1	令和元年度(平成31年度)板橋区子ども・若者計画2021進捗状況報告について	
1-(1)	いろいろとやって頂いてますが、子ども・若者の長所を伸ばす為の活躍の場、居場所づくりをしっかりとやってもらいたい。 子ども・若者の周囲に居る大人が一人ひとりと関わって行く事業を展開し成果に繋げて頂く様、希望します。	区ではジュニアリーダー体験学習事業や青少年健全育成地区委員会等、地域で子ども・若者の活躍の機会や居場所につながるような事業を推進しています。その中で、子ども・若者に関わる大人の役割は重要であるため、青少年委員の育成や保護者への支援を引き続き推進していきます。
1-(2)	コロナの影響もあるのか、不登校児童が減少していないように感じる。 i-youth大原・成増等を活用し、仲間と一緒に行動・活動することの楽しさ、すばらしさを感じさせ、不登校児童の減少に役立たせる。	板橋区の不登校児童生徒数はコロナ禍で増加傾向にあります。 大原・成増の両i-youthでは、さらに子ども・若者に広く認知されるよう効果的な周知や事業等の充実に努め、居場所の拠点としての活用を引き続き推進していきます。
1-(3)	どの事業も、少なからず新型コロナウイルスの影響を受けてはいるものの、若者の企画段階からの参加が促された事業があったこと、実施の形態を工夫して事業ができたものがあったことは評価したい。引き続き、若者の参加をさらに促す工夫や、活性化するための具体的な方法の検討が望まれる。	若者の参加をさらに促す工夫や、活性化に続く、新しい事業の検討を推進していきます。
1-(4)	事業名21、30について、事業実績を評価するためには、具体的な数値を開示すべきではないでしょうか。	2事業の数値について、開示いたします。 【事業21 不登校対策(H30→R1)】 不登校重点取組校 A校 5.22% → 3.05% 不登校出現率(%) B校 7.21% → 6.25% C校 5.68% → 3.29% D校 7.13% → 4.99%  【事業30 家庭教育支援チームの拡充(R1実績)】 ①学校の理解促進 小学校:16校 中学校:4校 ②顔合わせ 小学校:0校 中学校:1校

1-(5)	<p>ジュニアリーダーの増員により地域の活性化を図るとともに、ジュニアリーダーに区より多大な支援が必要とされる。 青健活動が地区にもよりますが、役員さんの若年化が必要と思います。</p>	<p>区より青少年委員会へ委託を通じた、研修会の充実や、ジュニアリーダーのスキルアップの推進等、今後も支援に努めてまいります。 板橋区の将来を担う次世代を育成する観点からも、ジュニアリーダーが将来、青健活動に携わることで、地域人材の持続可能なサイクルを推進していきます。</p>
1-(6)	<p>42項目もの事業や取組に対し、エールを送りたいと思います。 子ども若者が今後も取り残されない様、各方面と連携して施策をたて、実践していただきたいと思います。</p>	<p>区の取組について、励ましのお言葉ありがとうございます。 組織横断的な連携強化や関係団体との協力を築き、包括的な支援体制のもと、子ども・若者に向けた事業を推進していきます。</p>
1-(7)	<p>子ども・若者への支援を、大人の側だけで検討するのではなく、当事者である子ども・若者たちの意見も取り入れた方が、より良い支援策を作り出せるのではないかと考えています。 そこで、子ども・若者たちの意見を聞くことができ、支援策検討に参加ができる場を増やしていくことはできないでしょうか。 「34.子ども・若者支援地域協議会の設置検討」の事業などで、そうした機会や場所の提供ができないか、検討することはできないのでしょうか。</p>	<p>青少年問題協議会では、委員構成に若者の意見を聞くためにジュニアリーダーのOB・OGで構成されるジュニアリーダー顧問会と若者枠の公募委員を設けています。 また、「i-youthダンスフェスタ」をはじめ、i-youthの事業では、できるだけ若者の要望を聴いて事業計画に反映させたり、企画運営に係わる機会を設けたりして、若者が主体的に参画して実施できるように努めています。 ご提案いただいたような、当事者の意見を施策に反映できるような仕組みづくりを、引き続き検討していきます。</p>
2	平成30年・令和元年度 板橋区青少年問題協議会 提言関連事業令和2年度実施状況報告について	
2-(1)	<p>今後イベント型事業については、工夫が必要かと思えます。 中止せずに代替事業を実施してもらいたい。</p>	<p>従来の実施方法を感染防止対策に照らしたうえで適宜変更するほか、オンラインを活用する等、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら事業ごとに実施について検討していきます。</p>
2-(2)	<p>町会、青健行事等にジュニアリーダーが十分働ける場をつくってもらい、地域と一体となった活動を。</p>	<p>将来の地域人材の養成としてジュニアリーダーの育成は、とても重要であると考えています。 そのため、各地域でジュニアリーダーの活躍の場が増えるように働きかけていきます。</p>

2-(3)	<p>ほとんどの事業が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、具体的な事業が実施できていない。もともとの形態で展開していくことができないことはやむを得ないことであるが、Webを使った新たな形態での展開など、今後も長く続くであろうコロナ対策下での事業の展開方法について、具体的にあり方を検討していく必要があると思う。</p>	<p>区の一部事業には新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、オンライン対応やWeb上にコンテンツを設けての実施に変更したものがございます。今後も、事業の展開・推進方法については研究・検討を進めていきます。</p>
2-(4)	<p>「備考」を見ると、新型コロナ禍での困難やご苦労されている様子が伝わってきました。</p>	<p>コロナ禍でも展開可能な実施形式の模索を続けていきます。</p>
2-(5)	<p>学習支援の面で、GIGAスクール構想に伴い、タブレットを利用して板橋区独自の学習カリキュラム等、他区にない誰でも平等な教育が受けられるシステムを構築すれば、小中高生の勉強意欲が、湧くのではないかと検討。</p>	<p>一人一台端末に導入される学習支援ソフト(ミライシードの活用)等を活用し、最適なものを検討いたします。</p>
2-(6)	<p>コロナ禍の影響がかなり感じられました。教育・福祉・就労支援といった立ち止まることができない課題の中で、本当に大変な情勢だと思います。ですが、新しい生活様式にIT化をからめた形での今までとは違ったはたらきかけを検討していく時期なのかもと感じました。</p>	<p>コロナ禍でも展開可能な実施形式の模索を続けていきます。</p>
2-(7)	<p>仕方の無いことではありますが、新型コロナウイルス感染拡大による、活動内容の縮小や中止などが目立っていることが残念です。  まだしばらくは、コロナ禍での活動を余儀なくされると思います。  今回の協議会の中でも、コロナ禍での活動方法について、委員の皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。</p>	<p>コロナ禍でも展開可能な実施形式の模索を続けていきます。</p>

3	板橋区と東京都の教育の連携の検討について	
3-(1)	たいへん重要な連携であり推進を支持します。 中学生の個別の生活カルテの様なものをつくり都立高から照会があった場合に共有できるシステムを構築してもらいたい。	<p>連携の検討について、ご理解いただきありがとうございます。個人情報の壁は高いですが、進学を機に途切れることのない支援のあり方を考えていきます。</p> <p>不登校生徒については、都作成の「登校支援シート」を活用して個別の状況を把握しています。情報共有の方法については今後検討していきます。</p> <p>また、社会教育分野では、高校生年代の地域での学びの機会を拡充していくとともに、i-youthにおいては、中学生の時から利用者で、都立高校生に進学したメンバーには、必要に応じて都立学校「自立支援チーム」派遣事業のユースソーシャルワーカー制度を紹介するなどし、東京都の制度も活用して、個々の課題解決につながるよう支援していきます。</p>
3-(2)	都が、地域の青少年問題をどう考えているのか、全く不明、余り期待しない方が良い。	<p>平成30年・令和元年度任期の青少年問題協議会では、都教委の自立支援部門で高校中退の未然防止と中途退学後の支援を行っている担当者の協力をいただきました。</p> <p>区の力だけで、義務教育以降の取組の充実は困難であり、引き続き、都へ協力を要請していきます。</p>
3-(3)	方向性には賛成である。令和2年度は踏み込んだ検討に至ることができなかったということであるが、会議はWebでもできるので、ぜひ今後は具体的な支援策の検討を進めていくよう望みたい。	<p>様々な手法を活用し、可能なことから連携体制の構築を推進していきます。</p>
3-(4)	令和2年度の事情については理解しますが、大事な取組だと思いますので、できるところから前向きに取組を進めていただきたいと思います。	<p>様々な手法を活用し、可能なことから連携体制の構築を推進していきます。</p>

3-(5)	<p>昨年度から不登校の生徒に対する対応などで進路相談会として連携をさせていただいています。今年度も進路相談会には参加をさせていただき保護者の方を含め当該生徒にも希望の持てる話ができたと考えています。次年度も引き続き参加させていただければと思います。また、進路未決定者の相談等にも協力していければと考えています。</p> <p>次年度は本校のYSWと区のSSWの交流や本校の特別支援委員会との交流を通して生徒の健全育成に取り組んでいければと考えています。</p>	<p>平成30年・令和元年度板橋区青少年問題協議会へ、アドバイザーとしてご参加いただいていた時から、積極的なご意見に感謝いたします。引き続き、ご協力をお願いいたします。</p>
3-(6)	<p>早期連携等を期待します。</p>	<p>様々な手法を活用し、可能なことから連携体制の構築を推進していきます。</p>
3-(7)	<p>北豊島工業高校だけでなく、他の区内都立高校との情報交換・連携を行って、更なる支援のあり方を検討していただきたい。</p>	<p>支援の拡充についてご意見ありがとうございます。引き続き、検討していきます。</p>
3-(8)	<p>一人一台のタブレット環境の活用とし、東京(板橋)が世界ではいかに安全で暮らしやすい所か、また、世界的環境問題に対し、何をしなければいけないか、考えさせる教育を検討してほしい。</p>	<p>現在、板橋区立学校では環境教育カリキュラムを活用した取組を実践しており、今後一人一台端末を活用した実践について検討していきます。</p>
3-(9)	<p>前回の協議会で提案があった内容について、実現に向けて動いていることは、大変素晴らしい成果であると思えました。</p> <p>今回の協議会においても、提案を提案だけで終わらせず、実現していけることを目指していきたいです。</p>	<p>様々な手法を活用し、可能なことから連携体制の構築を推進していきます。</p>
4	<p>板橋区教育委員会が行う不登校対応について</p>	
4-(1)	<p>今後、睡眠と不登校の関係性を研究してほしい。</p>	<p>いただいた情報をもとに、この分野に関する研究を働きかけていきます。</p>

4-(2)	<p>タブレットによる教育が、家庭で教育を受けているのと一緒に感じる子どもが増えると不登校が増加するかも。</p>	<p>教育機会確保法の内容に基づいて対応していきます。</p>
4-(3)	<p>まず、活動内容が非常にわかりやすく図式化されていることを評価したい。また、板橋区の中学生の不登校出現率が都平均よりも下がったことにも注目したい。この数字の変化が、今回のプロジェクトチームの活動によるものか検証が必要であるが、経過を見ていくためにも、ぜひこの方向性で積極的に今後も進めてもらいたい。</p>	<p>プロジェクトチームは、不登校対策を組織横断的に取り組むための基盤としての発足でしたが、引き続き、不登校児童・生徒の社会的自立に向け、教育委員会が一体となって取り組んでいきます。</p>
4-(4)	<p>全体として総合的、横断的な取組が見通されていて成果が期待されると思えました。GIGAスクールによる1人1台端末は、それ自体が何かをもたらしてくれるのではなく、いかに活用するのが肝要だと思いますので、引き続き効果的な方法等をご検討いただければと思います。</p>	<p>配付がゴールではなくスタートという考えのもと、効果的な活用方法を検討していきます。</p>
4-(5)	<p>不登校対応については区教委も各小中学校もかなりご苦労されていることは伺えます。フレンドセンター等の活用実績を見ても相当数いるな、と改めて感じました。私がiCSの委員を務めている中学校の報告では学校復帰できている生徒が大幅に増加しているとの話もありました。一方で不登校生徒の数は減っていないというのも現状のようです。学校復帰できているということは取組みとしては成功しているといえます。時間はかかると思いますがじっくりと進めていただければと思います。</p> <p>本校定時制には不登校経験の生徒が少なくありません。それでも環境が変わり登校できるようになり、少人数のメリットを生かして授業に取り組んできた成果として一人もかけることなく進級卒業しています。中には皆勤の生徒も複数います。不登校生徒にとって定時制は悪くないかもしれません。</p>	<p>学校のきめ細やかな進路指導や、教育委員会での個別相談会等の開催による学校選択の可能性を広げることで、生徒が自分自身に合った学校の選択ができるような取組を推進していきます。また、不登校生徒と定時制の親和性の高さについては、ご意見4-(1)にも通じるところがあります。引き続き、ご協力よろしく願いいたします。</p>
4-(6)	<p>不登校に関しては、全体構造図も大事だが、各校のCS委員や地域の大人の声かけが、大事だと思われます。(但し、個人情報の管理等の取り決めが必要だと思います)</p>	<p>板橋区コミュニティ・スクール(iCS)や家庭教育支援チームといった学校と地域が連携した取組をより一層推進していきます。</p>

4-(7)	<p>不登校の理由は様々だと思うので、その児童・生徒に寄り添った細かい対策が必要だと思います。本人の「社会的自立」にむけた対応はとても良いことだと思います。</p>	<p>今後も一人ひとりにしっかりと寄り添い、青少年が社会的自立に向けて成長できるような取組を推進していきます。</p>
4-(8)	<p>ジュニアリーダー活動が、不登校対応の1つである、居場所と体験活動の場づくりに有効と考え活動を推進していきます。ジュニアリーダー活動の学校(教職員、生徒)への認知度も高めたいと考えます。</p>	<p>ジュニアリーダー活動の推進ありがとうございます。区としてもジュニアリーダー活動は居場所や自己肯定感の獲得に繋がるものだと考えています。引き続き、ご協力をお願いいたします。</p>
4-(9)	<p>2の項でも書きましたが、5の②GIGAスクール構想とコロナ禍の対策による、オンラインでの対応というのは今後のスタンダードになるのではないかと感じています。</p>	<p>コロナ禍でも、学びを止めないために、オンラインによる学習について検討し、本区にあった方法を確立していきます。</p>
4-(10)	<p>現在のコロナ禍において、タブレット端末を活用した不登校支援は、とても重要な役割を果たすものではないかと考えています。実際にどのように活用しているのか、また、今後の活用計画はどのようなものかなど、より詳細なご説明をいただければと思います。 また、対面でも支援が難しくなっていたり、制限のある中で支援を行っている場合もあるかと思えます。 そうしたことが、不登校支援になにかしらの影響が及んでいるのであれば、その内容をお聞かせいただきたいと思います。</p>	<p>タブレット端末の活用方法の一つとして、不登校児童・生徒へ授業配信(フレンドセンター等への配信)を行うことにより、学校以外の場所にいなから学校の様子がわかり、リアルタイムで学習を進めることで学びの機会を確保していくことをめざしていきます。タブレット端末の配付は完了しましたが、全校にwi-fi環境が整うのは令和3年9月以降を予定していますので、不登校支援としての活用事例については別途集約していきます。</p>